



うれしの特支スタンダード

指導・支援の7つの基礎・基本（知的障害教育編）

① 年齢にふさわしい接し方をします

- ・ 名前を呼び捨てにしたり、あだ名で呼んだりせず、「〇〇さん」と呼びましょう。
- ・ 不必要な身体接触や年齢不相応な接触は避けましょう。
- ・ 子どもに応じてしっかりとスキンシップを図る場や活動を検討しましょう。
- ・ 社会的に認められない距離感やパブリックゾーン、プライベートゾーンについても子どもたちの理解を促していきましょう。



「チームうれしの」
みんなで力を合わせて
頑張りましょう！



③ 子どもが安心できる関わり方を心がけます

- ・ 言葉かけのときには、穏やかに適度な大きさでゆっくりと、を心がけましょう。
- ・ 手首をつかまず、子どもから手を握ってくるように手をつなぐようにしましょう。



② 子どもに伝わる説明をします

- ・ 子どもに言っただけで安心せずに、子どもにしっかりと伝わったか、必ず確認しましょう。
- ・ うまく伝わっていないときには、伝え方をもう一度考えてみましょう。
- ・ 伝えるときのポイントは、視覚的に、具体的に、短く分かりやすい言葉を使いましょう。
- ・ 大事なことは、繰り返しましょう。
- ・ 子どもに応じた具体物や絵カード、文字カードなどの視覚情報を活用した支援も検討しましょう。
- ・ 否定的な表現でなく、肯定的な表現で言葉かけをしましょう。



④ 最適な支援を必要な分だけを心がけます

- ・ 一人でできる状況づくりを心がけ、自分でやろうとしていることには、しばらく見守る姿勢も大切です。
- ・ できることは自分でする場面を、できそうなことは自分でできるような手立てを、どうしてもできないことは周りの人に依頼する手立てを設定しましょう。
- ・ 直接的な支援だけでなく、教師が正しいモデルを示すことも大切な支援です。モデルを示しながら一緒に活動することを大切にしましょう。



⑤ 子どもの行動を細やかに見ます

- ・ 子どもの行動には必ず理由があります。その場面だけでなく、前後の場面にも注目して、子どもの行動の理由や子どもの気持ちを理解するように心がけましょう。
- ・ 子どもの理解の仕方、支援の仕方は大きく変わります。
- ・ 関わる人すべてが情報を共有し、様々な視点から子どもの理解に努めましょう。
- ・ 子どもは、日々成長します。固定的な見方ではなく、普段の実態把握に努めましょう。



⑥ 子どもの実態を肯定的に見ます

- ・ できたときには、しっかりと褒めて自信を育んでいきましょう。
- ・ 苦手な面だけでなく、得意な面に着目して、さらに伸ばしていくように支援をしていきましょう。



⑦ 子どもの自己決定を大切にします

- ・ 子どもが自分で選択して決められるようにしましょう。
- ・ 選択肢は、2つから3つと少しずつ多くして、細かいことまで選ぶことができるようにしていきましょう。



私たちは、子どもの気持ちの理解に努め、子どもたちの人権を尊重した指導・支援を行います。



うれしの特支スタンダード

指導・支援の7つの基礎・基本（肢体不自由教育編）

「チームうれしの」
みんなで力を合わせて
頑張りましょう！



①年齢にふさわしい接し方をします

- ・名前を呼び捨てにしたり、あだ名で呼んだりせず、「〇〇さん」と呼びましょう。
- ・ unnecessary 身体接触や年齢不相応な接触は避けましょう。
- ・子どもに応じてしっかりとスキンシップを図る場や活動を検討しましょう。



②子どもの実態を肯定的に見ます

- ・できたときには、しっかりと褒めて自信を育んでいきましょう。
- ・苦手な面だけでなく、得意な面に着目して、さらに伸ばしていくように支援をしていきましょう。



③学習に最適な姿勢を心がけます

- ・体幹が安定すると、表情、四肢などの自発的な動きが出やすくなります。学習場面に応じた姿勢を検討しましょう。
- ・呼吸しやすい姿勢かどうかを必ず確認しましょう。
- ・長時間同じ姿勢をとることは避け、時々、姿勢の変換を行いましょう。
- ・子どもの身体に負担を掛けないう、また支援者もけがをしないよう、支援者も安定した体勢で支援しましょう。



④車椅子の支援には特に気を配ります

- ・車椅子は子どもの身体の一部であることを意識しましょう。
- ・車椅子に正しく乗っているか、確認しましょう。
- ・車椅子を止めるときには必ずブレーキがかかっていることを確認しましょう。
- ・車椅子を動かすときには、どこに行くのか、行ってもいいのかを必ず声をかけて確認しましょう。
- ・定期的に車椅子の各部の点検を行いましょう。



⑤身体に直接触れるときには特に気を配ります

- ・身体への直接的な支援は、体幹から末梢へ、が基本です。
- ・指先でなく、手のひら全体で触れると余分な筋緊張が出にくくなります。
- ・子どもが安心して支援を受けられるよう、爪を整え、温かい手で触れましょう。
- ・姿勢を変換するときにも、身体の軸を意識しながら、「横向くよ」などと言葉をかけるようにしましょう。



※突然動かすと、反射や筋緊張を誘発することがあります。

⑥子どもへの言葉かけには細やかな配慮をします

- ・言葉かけのときには、穏やかに適度な大きさでゆっくりと、を心がけましょう。
- ・子どもの正面から話しかけ、目線の高さ子どもの表情にも気を配りましょう。



⑦子どもの自己決定を大切にします

- ・子どもが自分で選択して決められるようにしましょう。
- ・選択肢は、2つから3つと少しずつ多くして、細かいことまで選ぶことができるようにしていきましょう。
- ・言葉だけでなく、表情や視線、呼吸、身体の一部の動きなども応答になりますので、細かい表出も見落とさないようにしましょう。
- ・子どもに応じた支援機器を活用しましょう。



私たちは、子どもの気持ちの理解に努め、子どもたちの人権を尊重した指導・支援を行います。